

(20180526 練習メモ)

「島よ」

- ・どの場面も、気を抜かない ・不用意に歌わない
- ・全力で歌う 気持ちを合せて歌う ・全員が歌う ・毎回新鮮な気持ちで歌う
- ・楽譜から顔を上げて歌う箇所、楽譜をめくらない箇所、その日の、その一瞬の空気を、一緒に感じよう！

P6～P7 Sop.が先導して出るところ「たえている」「あこがれと」「あまたのため」

歌い出しにもっと意志を持って、はっきり、合わせて

P14 「なぜ なぜ なぜ」 八分休符は休まないで N で準備して気持ち高めて

P18 「おもくなる」では 絶対おそくならない

P19 「わすれられた」「このみのように」 シリアスに 発音暗く

P24 「まざりあう このきょうき」から 特に女声 もっともっと切迫感を持って、鋭く

P44 「すみれー むらさきー」 よく響く声で、感動的なハーモニーを聴かせよう

P51 Sop.「みしらーぬ いちにちが」 一人一人が余裕を持って、全員が歌おう（共同作業）

Alt.Ten.Bass の最初の小節は Sop.の[みし]まで三拍のばす

P56～P57 mf を f に f を ff に変えた意味を歌に出そう 特に P56 の女声は f (フォルテ)でしっかり歌う

P58 上の段の最後 男声はピアノの対旋律に引き渡すように dim.

- ・すでに楽譜に書いてある注意が何度もされて繰り返されています…。
- ・楽譜を更に読み込み、構成を理解し、一人一人の「島よ」を演じましょう。

「帆を上げよ、高く」

3. 帆を上げよ、高く

- P51 練習番号 C からはピアノの 16 部音符の流れを聴いて、息も流して
- P56 Sop. 「つながって行く/いのちの/あかしとして」日本語を歌う
- P57 「Go」は g と o を分けて言う感じ (O が拍の頭) 「in」の n は必ず舌を歯のウラにつける
「hand」の d は舌を離して発音する
- P58 Allegro ma non troppo ← いよいよ船出だ、という切迫感を持って
- P59 女声 Alto の「繰り返される」に続いて、Sop. が改めて p (ピアノ) で追いかける感じで
下の段の下三声の「しおの」「かおり」の語頭の子音 (S K) をはっきり
- P61 上の段 全音階で広がりをつくり「ときが来たのだ」に入る
- P61~ 「ふなで」の語頭の H 「帆をあげよ」の語頭の H はっきり
- P63~ テーマ (強弱記号 f フル) を際立たせるように歌う
- P70 上の段 181 小節目の男声「ふなでの」から piu mosso (テンポが変わり) + accl. (楽譜に記入)
- P71 上の段 194 小節目に rit. を全パート書き入れる

【英語の発音について】

- ・「Go,」は「ゴウ」の二重母音で発音する。(「ゴー」と言わない)
特に「go in」は「ゴーイン」と言わず「ゴウイン」と発音する。
- ・「guide you」は「ガイジュー」と(リエゾンして)言わず「ガイドウユウ」と発音する。
- ・「hand」は「ヘンド」になりすぎないように。米語でなく英語的に(どちらかと言えば「ハンド」に近く。しかし日本語の「ハンド」と言わず曖昧な母音で)。語尾の「d」は必ず発音する。

2. 春愁のサーカス

曲の根底に流れる『月光とピエロ』のモチーフ「♪身過ぎ世過ぎの是非もなく」、「♪かなしからずや身はピエロ」などを理解して歌おう

- P29 下の段 Alto の「おとをあびるきみ」の「きみ」でゆるみ、「差し出した手に」から音楽が前に進む
他の場面でも「きみ」という言葉で、なんらかの“ゆるみ”を表現
- P31 Sop. 「ほそい身をかがめ」しゃべるように (三連符にとらわれない)

※29日(火)の現役練習では3曲目の流れの確認と2曲目のツメをやる予定です。

2018.5.28

文責：関@Sop